摘　要

本報告においては日本産マツタケ目菌類 7 種を載録した。

101) **ウバノカサモドキ**（新種）　かさは暗灰色，胞子は球形で小形。滋賀県瀬田町堂のマツ林内で採る。

102) **クロフクロタケ**（川村）　川村清一氏の原色日本菌類図鑑，第 5 巻，第 563 図に図示されているが，正式に記載されていないため，ここでラテン語の記相文を補足することにした。筆者の所蔵する標本は，滋賀県瀬田町大江，ならびに八重山群島石垣市で採集されたものである。

103) **クロベニヒダタケ**（新種）　かさは暗黒褐色，茎はかさより淡色で細長い。本属としては中形の種類である。大津市石山千町竹林内に捨てられたコムギわらに発生。

104) **キンコガサタケ**（新称）　こがね色の可憐なきのこである。大津市石山千町の竹林内に捨てられたごみの上に発生。

105) **ツボアセタケ**（新種）　茎の下部に外被膜の名残りが不完全なつぼとなって存在するが，個体によってはきわめて不明瞭なこともある。大津市石山寺辺町のマツ林内で採集。

106) **ウスムラサキフウセンタケ**（新種）　全体がうすいフジ色であるが，まもなく色があせて白っぽくなる。胞子は類球形ないし短だえん形。大津市三井寺境内のシイ林で採る。

107) **ヒメアワタケ**（新種）　小形のアワタケ類で，胞子は卵状だえん形である。大津市石山千町の林内広葉樹下で採る。

○新らしく入った帰化植物 2 種（大井次三郎）Jisaburo Ohwi: Two new alien plants

ハゴロモグサ　日本の自生種にはバラ科植物は多数あるが，バラ科の帰化植物はそれ程沢山は知られていない。ハゴロモグサ属の中には荒地に生えて雑草化している一年草があって，その内に入って来てもよさそうなものと予想しないでもなかったが，九州，長崎市の麦畑のなかに入って来たのを昭和 35 年 4 月 10 日，外山三郎氏が採集せられた。欧洲そのほかに一番普通な *Alchemilla arvensis* (Scop.) Linn. で，*Aphanes arvensis* Linn. として，ハゴロモグサとは別属にすることもある。

シラゲオニササガヤ　濠洲からマレーシアにかけ分布する *Dichanthium sericeum* (R. Br.) A. Camus が京都市山科の埋立地に侵入したのを昭和 37 年 9 月 8 日に黒川喬雄氏が採集せられた。この属には沖縄植物目録に *D. nodosum* Willem. = *D. aristatum* (Poir.) C. E. Hubb. にオニササガヤの和名がついているのでシラゲオニササガヤの和名を用ひたい。　（国立科学博物館）